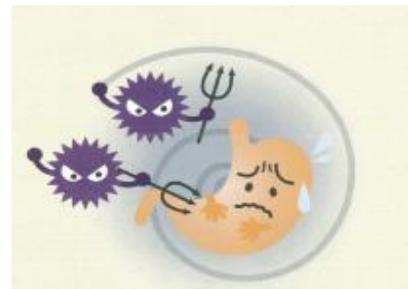


# がん検診で慢性胃炎と診断された方へ

**Q** 今回“胃炎”という結果が届きました。  
どこか悪いところがあったのですか？

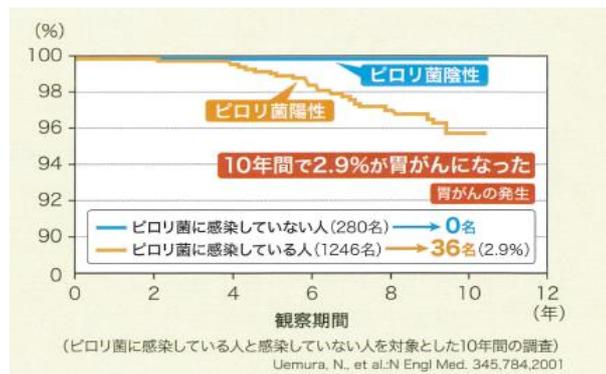


**A** 胃X線検査で慢性胃炎があるときは“胃炎”と通知するようになりました。  
今までは胃潰瘍や十二指腸潰瘍癒痕、ポリープ、粘膜下腫瘍などの明らかな病変がなければ慢性胃炎があっても多くの場合は”異常なし”という結果を通知していました。

**Q** どうして慢性胃炎を“胃炎”と通知するようになったのですか？

**A** 胃X線検査で慢性胃炎を診断することはピロリ菌感染の可能性があるかどうかを見ていることとなります。ピロリ菌感染は胃がんの確実なリスク因子であり、ピロリ菌感染がある方は胃がんにかかるリスクが高く、ピロリ菌未感染で胃炎・萎縮のない健康な胃からの胃がん発生は極めて稀といわれています。“胃炎”と通知された方は、“胃がん発生リスクが高い”ので要注意です。ご自身の胃がんリスクを知り、定期的に必ず検診を受けて胃がんの早期発見・早期治療に努めてほしいので“胃炎”と通知するようになりました。

**Q** ピロリ菌感染があると胃がんになる可能性が高いといわれますが、どれくらい危険なのですか？



**A** 日本人に多い胃がんの99%以上はピロリ菌が原因といわれています。しかし、ピロリ菌感染がある方が必ず胃がんにかかるわけではありません。ピロリ菌感染があるヒトから胃がんが発生する割合は年間0.4%程度です。

**Q** “胃炎”といわれても症状がありません。  
どうすればいいのですか？

**A** ピロリ菌に感染していて慢性胃炎があっても大多数の方は無症状です。ヒトによっては空腹時の痛み、胃もたれ、食後の腹痛、食欲不振、胸やけや吐き気などの症状がみられることもあります。“胃炎”と通知が届いたとしても“精密検査が必要”と判断されたわけではないので、症状がなければ慌てて病院に行って治療する必要はありません。それでも心配な方は医療機関で内視鏡検査を受けて下さい。

**大事なことは、ご自身の胃がんリスクを理解して、定期的に胃がん検診を受けることです。**



## 除菌治療を受ければ胃がんにかからなくなるのですか？



除菌治療には胃がん発生リスクを60～70%に抑制する効果があるといわれていますが、その効果は不確実なところがあります。除菌しても胃がんはゼロにはなりません。除菌治療には多く胃の病気の治療・予防効果がありますが、デメリットとして下痢や味覚障害、出血性腸炎といった副作用や除菌後の逆流性食道炎の増加などがあります。保険診療の場合は内視鏡検査とピロリ菌感染検査が必要です。

除菌治療を受けたら成功したかどうか必ず判定して下さい。判定は除菌薬の内服終了後6週以上あけて行います。除菌薬を服用しただけではピロリ菌がいなくなっているかどうか判りません。



## 健康保険で除菌治療を受けるにはどうすればいいのですか？



まず、医療機関で内視鏡検査を受ける必要があります。

内視鏡検査でピロリ菌感染胃炎が疑われたらピロリ菌感染検査を行い、ピロリ菌陽性ならば健康保険で除菌治療が受けられます。ピロリ菌感染検査には、内視鏡検査を使って行う迅速ウレアーゼ試験や培養法、呼吸を使う<sup>13</sup>C-尿素呼気検査、血液や尿のピロリ菌抗体検査、便を使って行う便中抗原検査などがあります。

診断法	特徴
培養法 	内視鏡で採取した胃粘膜組織を培地に植えて培養する。発育した菌を使って薬の効果も試験できる。特殊な設備が必要で判定に5-7日以上かかる。
迅速ウレアーゼ試験 	内視鏡で採取した胃粘膜組織を試験液に入れておくと、ピロリ菌が持つウレアーゼ活性により試験液の色が黄色からピンク色に変わる。短時間で判定できるが感度が低い。
鏡検法 	内視鏡で採取した胃粘膜組織を染色して顕微鏡で観察する。採取した場所に菌がないと判定できない。
<sup>13</sup> C-尿素呼気試験 	ピロリ菌はウレアーゼによって胃内の尿素を分解してアンモニアと二酸化炭素を作り出すので、特殊な炭素( <sup>13</sup> C)を含む尿素試験薬を服用し、しばらくして吐き出した呼気中の炭素( <sup>13</sup> C)を含む二酸化炭素の割合を調べる。最も精度の高い検査法だが、胃薬や食事の影響を受けることがある。
血清ピロリ菌抗体検査 	ピロリ菌に対する抗体の有無を血液で調べる。もっとも簡単な検査の一つで、食事や薬の影響を受けず、過去の感染でも陽性になる。



## 除菌治療はどんなクスリを使うのですか？副作用はありますか？



除菌治療では胃酸分泌抑制剤（プロトンポンプインヒビター）と2種類の抗生物質（ペニシリン系とクラリスロマイシンまたはメトロニダゾール）を1週間内服します。除菌薬内服によるおもな副作用は下痢や味覚障害などですが、まれに下血や偽膜性腸炎、じんましんのようなアレルギー症状が起きることがあります。ペニシリンアレルギーのある方の除菌治療は保険適用外です。専門医にご相談下さい。

除菌後に起きる合併症としては逆流性食道炎などがあります。

除菌後に胸焼け症状が出る場合は医師にご相談下さい。



## 除菌治療を受けた後は胃がん検診を受けなくても良いのですか？



除菌によって胃がん発生リスクは低下するといわれていますが、除菌後も胃がんは発生することがあります。除菌が成功した後も定期的に医療機関で検査を受ける、もしくは、定期的に胃がん検診を受ける必要があります。

**胃がんは早期発見・早期治療できれば、治せる病気です。**  
**定期的に胃がん検診を受けることが大事です。**